

# 乙女高原が好き！ 1202号

## 乙女高原が好きだから... 多くの方の善意が 乙女高原を支えています

とうとうですが、どんな自然なら守られて、どんな自然なら守られないと思いますか？ 美しい自然？ 貴重な動植物？ 雄大な景色？ 生物多様性のホットスポット？ ...どれも間違いではありません。でも、美しいからといって、貴重だからといって、ただそれだけで守られるわけではありません。とても単純で、当たり前のことですが、その自然を守ろうと思い、実際に守る行動する人がいて、初めて自然は守られていくのです。決してそんなに美しくない自然でも。貴重ではなくても。

自分自身、今までそう信じて活動してきましたが、活動を通して、ますます確信を深めています。たとえば、レンゲツツジの咲くころ、乙女高原を訪ねたところ、ロッジ前のベンチ周辺の草がきれいに刈られていました。昨年同様、ロープの師匠・武井さんが、だれに頼まれたのでもなく草刈りをしてくださったのです。花を見に来た方が気持ちよくここでお弁当を食べられるように、と。

また、今年は山梨市・山梨市教育委員会とご相談しながら、3つの工作に取り組んでいます。一つは、根元が腐っていつ倒れてもおかしくないベンチとテーブル。二つ目は、これも根元が心もとなくなってしまう乙女高原の草原を紹介する看板。そして、3つめが、乙女高原の気象観測の拠点となる百葉箱です。いずれも乙女高原案内人の雨宮さんがご自分の技術を生かしてボランティアで作ってくださいました。1と2は今あるものを交換したり、修繕したりします。材料については、ファンクラブ代表世話人である宮原さんからもご提供いただいています。3についてはJAフルーツ山梨・山梨支所様より譲っていただいた中古の百葉箱を雨宮さんに修理していただき、ロッジの庭に仮設置させていただいています。

草刈りイベントの初期のころからおいしい野菜や味噌を提供してくださっている竹居さん(肉とごぼうは藤巻さんです)。草刈りにパッカー車を提供してくださった(株)田丸の皆さん。乙女で自然の調査を始めてくださった麻布大学・高槻先生の研究室の高橋さん、加古さん。残土処分場に乙女の刈り草を運ぶ「藁撒き」プロジェクトのモニタリングをしてくださっている東京農工大の星野先生。お子さ



毎年、自主的に草刈りしてくださる武井さん



ぐらついたテーブルとベンチを直してくださったのは雨宮さん



んのお子守りも兼ねて乙女高原で昆虫の調査をして下さっている厚木市郷土資料館の槐さん。希少植物保護のためにご自分の持っている技能を提供していただいている方もいます。そして、毎月、乙女高原を守るための話し合いに参加して下さる世話人の皆さんや市・県の担当者の皆さん。ファンクラブにご寄付を託して下さっている会員の皆さん...。挙げていけばきりがありません。

ロッジが休業になったこと。シカの食害が甚大なこと。ファンクラブ自体の活性も弱まっていることなど、乙女高原の自然を守っていくためには課題山積です。でも、このように、乙女高原の自然を守ろうと思い、実際に守る行動する人がたくさんいらっしゃいます。大きな課題も少しずつ削っていき、一つずつ解決し、乙女高原の自然をできるだけ豊かな状態で次の世代に譲り渡していきましょう！ 皆さんのご参画・ご支援を心よりお待ちしております。（植原 彰）



スマレ・フィールドガイドを使って...

乙女高原の仲間

## スマレ観察会を実施...また新しいスマレが!

スマレ観察会 5月13日

遊歩道づくりの午後、今年第1回目となるスマレ観察会を行いました。まずは今回の講師・依田さんからスマレについて簡単なレクチャーをいただき、さっそく歩き始めました。

森のコースを登っていくと、途中の森の中でエイザンスミレの花を発見。このスマレは草原より森の中のほうが好き。木々が芽吹く前に大急ぎでわりと大柄な花を咲かせます。葉っぱに切れ込みがあるという変わり者なので、一度見ると忘れないでしょう。春真っ先に咲くスマレの一つです。

森のコースを登っていき、展望台に出ました。富士山が目線の高さくらいに見える場所です。この時期、盆地からは富士山の雪をかぶった部分しか見えませんが、ここからだ雪の下の部分まで見ることができます。盆地からだと富士山は見上げる存在ですが、ここからだ、なんか同じ高さというか対等に見えます。さて、ここは乙女高原屈指のスマレ・ポイント。特に早春に咲くスマレがごそっと見られる場所です。まず遊歩道のすぐ脇でタチツボスマレを見ました。「坪」とは「庭」という意味で、「庭で見られるスマレ」つまり里山で普通に見られるスマレです。珍しくないスマレですが、ぼくはこの花の色といい、感じといい、大好きです。次に、ミツバツチグリやキジムシロといった黄色い花に囲まれたアカネスマレです。きれいな紫色のスマレです。このスマレはとても毛深く、距（スマレの花のしっぽ）の表面にも毛が生えています。アケボノスマレは、ちょっと不気味です。だって、葉っぱがまったくくないのに、まるで蛇が鎌首を持ち上げるみたいに地面からニューッと出てきて、花だけ咲かせています。もちろん、お花はとても上品だし、色も紅色できれいなのですが、地面から花柄だけ出ているというが、どうも...。ちなみに、アケボノスマレは林のスマレです。ヒナスミレも見ることができました。乙女で真っ先に咲き終わってしまうので、最近までぼくは花の存在すら知りませんでした。依田さんに教わって、はじめて存在を知ったスマレの一つです。

さて、車に乗って移動し、焼山峠の近くの林の中を第2ポイントとして観察しました。ここはタチツボスマレとミヤマスマレの共演が見られる絶好のポイントなのですが、ミヤマスマレにはまだ早いようでした。でも、ヒメイチゲはたくさん見られました。ヒナスミレに混じって、シロバナヒナスミレも確認できました。

今日は23人も参加者がありました。中でも小学生の女の子二人がとても熱心にメモしたりしていて、観察会の雰囲気を和やかなものにしていました。



スマレ観察会講師の依田さんとミヤマスマレ

たいへんな観察会でした。講師の依田さんは急にご都合が悪くなり、スミレ・フィールドガイド編集スタッフの井上さんも不参加。こんな時に限って、参加者がなんと45人。こんな大人数で小さなスミレなんて観察できるのか、踏み荒らしてしまわないかと心配になりました。でも、結局、天気はそこそこいいし、楽しい観察会になりました。大人数なことは予測していたので、一応準備はしておいたんですよ。スミレの画像をいくつか大きくプリントアウトし、それを紙芝居のように使いながらスミレの説明をしました。「有茎種と無茎種」「花の時期に葉があるかないか」「葉の形」「スミレのたねをアリが運ぶこと」「スミレをヒョウモンチョウの幼虫が食べる」などです。

説明後、森のコースを登っていきました。どうしても列が長くなってしまいますので、ここからは十分な説明は無理でしたが、途中でスタッフの三枝さんや芳賀さん、鈴木さんに入ってくださいました。サクラスミレがたくさん咲いていました。エイザンスミレの花が咲き残っていました。タチツボスミレも咲いています。スミレ以外にも、ミツバツチグリとキジムシロの見分け方を説明したり、高いところに咲いているヤマナシの花を見たりしながら、てっぺんの「ヨモギ頭」に到着しました。

ヨモギ頭では、サクラスミレ、タチツボスミレ、アケボノスミレ、アカネスミレが観察できました。エゾノタチツボスミレもありました。そこから草原コースのてっぺんに出て、草原コースを歩きながら、フデリンドウやカンバ3兄弟、シカ柵の観察をしました。湿地に向かう道で白いサクラスミレを探したのですが、この回では見つかりませんでした。湿地にはクリンソウが咲き始めていました。

昼食後、参加者のお一人が散歩して見つけたというスミレを見に、全員でクリスタルラインを歩いていきました。白いスミレで、新種発見とも思われましたが、おそらくはマルバスミレ。乙女までの林道では春早く咲くスミレで、今頃はもう咲き終わっていますが、標高の高い乙女高原では今頃咲いていました。

車に乗って焼山峠まで移動し、タチツボスミレやミヤマスミレ、ツボスミレを観察。ここまでは観察会として実施し、いったん解散。その後、希望者でシコクスミレやオトメスミレを見に行きました。



こんなにたくさんの参加者。これで小さなスミレを観察するのはたいへんそう...

## スミレ観察会

6月10日

今回は参加者20名。講師の依田さんも復活。楽しい観察会になりました。1日中、暑くもなく、寒くもない、ちょうどいい天候でした。まずは森のコースをヨモギ頭へ。サクラスミレはまだまだたくさん咲いています。この時期、「ミョーケン、ジジジ・・・」と鳴き、カエルの鳴き声と間違えられるエゾハルゼミが葉っぱの上に止まっていました。メスでした。

ヨモギ頭では、エゾノタチツボスミレが迎えてくれました。このスミレ、スミレのくせにいやに背が高く、まわりの草が大きくなってきた初夏にも十分対応できるようになっています。林の中に咲くエイザンスミレは木々が芽吹く前に急いで花を咲かせなくてはならないので春の始めに、背の低いミヤマスミレも春先に、草原に咲くサクラスミレは草の芽が出てくるまでに時間があるので少し遅れて、背の高いエゾノタチツボスミレはほかの草との競争にも強いので初夏に…。いろんなスミレがそれぞれの個性に応じた生き方をしているのが観察できて、とても楽しいし、生物多様性が実感できます。

湿地に向かう道の途中で、ついに見つかりました。白い花のサクラスミレ。シロバナサクラスミレ。2年ぶりに見ることができて、感激です。これを見つけたのは三ツ峠でもスミレ観察をしている山本さん。さすがだなあと感じました。それにしても気品を感じる花です。

お昼のあとで、やはりサクラスミレの変わり種、チシオスミレを探しました。葉脈が赤っぽいスミレです。葉をひっくり返すと、サクラスミレは緑色ですが、チシオスミレはなんとなく赤っぽいです。それらしい花を見つけてくれたのは、3回のスミレ観察会皆勤賞の小学生あずさちゃんでした。

一応観察会はここまでで、その後、希望者で大窪山に登り、アズマシャクナゲの花を見てきました。もう終わりかなーと心配しましたが、まだ元気に咲いている株もあり、皆さんをご案内する立場としてはほっとしました。帰り道は少しだけ遠回りをして、湿地を観察しながら帰ってきました。



# 10年目のマルハナバチ調べ隊

## きょうはマルハナバチが見れてうれしかったです

年に3回、マルハナバチの調査兼観察会を行うという「マルハナバチ調べ隊」も今年で10周年となりました。毎年、6月最後の日曜日、8月の第2日曜日、9月の第2日曜日をめぐり、できるだけ調査月日を同じにしています。毎年、調査結果を比較するためです。また、この活動を「マルハナバチ観察会」としないのは、この活動に参加して調査方法を会得してもらい、今度は個人的にもマルハナバチの調査をしてもらい、乙女高原のマルハナバチのより詳しいデータを集積しようと考えたからでした。なかなか思惑通りには進んでいませんが、それでも10年も続けていることは評価できると思います。

今日の参加者は18人。曇ってはいますが、天気もこの時期としては上々です。レンゲツツジが満開を迎え、多くの方が乙女高原を訪れていました。いつも通り、まずは紙芝居を使ってマルハナバチの紹介です。BGMはリムスキー・コルサコフ作曲の「クマバチは飛ぶ」。このタイトル、じつは誤訳で、正しくは「マルハナバチは飛ぶ」です。マルハナバチの概要、乙女高原にいるマルハナバチの種類、マルハナバチの1年間、マルハナバチの花への訪れ方を紹介し、いよいよ草原の中を歩いて、マルハナバチを探します。

キンポウゲのてかてかした黄色い花が目立つ草原ではアヤメも咲き始めていました。レンゲツツジが咲いている前に差しかったところ、いました、マルハナバチ。でも、おもしろいんです。ハチは花の中には入らずに入り口付近で体を盛んに動かし、すぐに隣の花に移り、同じ行動を繰り返しています。典型的な花粉集めの行動です。蜜を吸うなら、花の奥まで入り込んでいきますからね。全身真っ黒で、お尻の先だけオレンジ色のコマルハナバチのワーカー（働きバチ）でした。遠くにいるマルハナバチはパピリオ双眼鏡で観察です。この双眼鏡50cmまでピントが合うので、虫を観察するには最適です。今度のコーちゃん（親しみを込めてマルハナバチたちをニックネームで呼んでいます。コマルハナバチはコーちゃん、トラマルハナバチはトラちゃんなど）は花の蜜を集めているようでした。

途中、レンゲツツジの花や葉を食べちゃう尺取り虫であるヒョウモンエダシャクや6月だというのにまだ咲いているスミレの花（じつは今頃がちょうど咲き頃であるエゾノタチツボスミレ）なども観察しながら、午前中の調査を終えました。出会ったマルハナバチは16頭で、すべてがコーちゃんでした。いた花は全部がレンゲツツジで、10頭は花粉集め、4頭は蜜集め、残りの2頭は不明でした。

午後からは待ち伏せ調査を変更し、ブナじいさんまでの自然観察ハイキングをしました。ブナじいさんの森ではたくさんの落とし文を拾いました。



㈱丸の「田丸グリーン基金」さんから活動協力費をいただきました。これで連続9年目です。また、毎年、春の遊歩道づくりと秋の草刈りにはたくさんの社員の皆さんが参加して下さいます。昨年の草刈りではゴミ収集車までご提供いただきました。ほんとうに心強く思います。

今年も乙女高原で会いましょう 暑い夏も涼しい乙女高原で



## 乙女高原で自然観察さんまいな一日を

8月5日(日) マルハナバチ調べ隊(今年度第2回目)

**集合** 午前10時 グリーンロッジ前。 **終了** 午後2時半。 雨天中止。

**参加対象** 小学校4年生以上(それより小さなお子さんも保護者同伴なら参加可です)

**定員** 20人。 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入します)

参加者全員に『乙女高原フィールドガイド マルハナバチ・ウォッチング』をもらってプレゼント。

**持ち物** 筆記用具, ペン, 雨具 (ほかにルーペなどかんさつ用具があれば)

8月18日(土) 杭をつくろう(木工作业)

乙女高原の遊歩道で使う杭を, 間伐材を活用して手作りします。原則として案内人の活動ですが, ファンクラブ会員や興味のある方の参加も可能です。実際に自分の手で何かを作るのって, 楽しいですよ。

**集合** 午後1時 グリーンロッジ前 **終了** 午後4時(予定)。少雨決行 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入)  
(午前中は間伐材の運び出しをします。お手伝いいただける方はぜひお願いします)

**持ち物** 作業手袋(軍手など), のこぎり, なた, …などの大工道具(無くてもオッケーです)。

8月18日(土)~19日(日) 星空観望会&親睦会(金峰山荘にて合宿)

乙女高原星空観望会の皆さんといっしょに柳平の民宿・金峰山荘に泊まりながら, 星空を見せていただいたり, 親睦を深めたりします。申し込み締め切りを7月21日とします。

**集合** 午後5時 金峰山荘(0553-35-4375) **終了** 午前9時半(予定) **参加費** 8,000円程度(1泊2食)

**持ち物** 宿泊用具, 着替え, 防寒具(夏とはいえ夜は寒いです), 懐中電灯など。

詳しい日程等は申し込まれた方にお伝えします。

8月19日(日) 乙女高原を歩こう(自然かんさつ会)

乙女高原をゆっくり歩きながら, この時期ならではの乙女高原の自然をかんさつします。

**集合** 午前10時 グリーンロッジ前。 **終了** 12時。 少雨決行。

**参加対象** どなたでも。 **定員** 30人。 **参加費** 無料(行事保険には主催者で加入します)

参加者全員に『乙女高原フィールドガイド 乙女高原のお花たち』をもらってプレゼント。

にはぜひセットでご参加ください。のみ申し込み締め切りを7月21日とします。ファンクラブ事務局まで申し込んでください。

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」より寄付金をいただきました。イオン石和店さんより7,000円分の, マックスバリュ石和店さんより2,800円分のイオンギフトカードをいただき, さっそく文具等を購入させていただきました。2007年から毎年いただいています。

乙女高原の自然を知らなきゃ、守ることはできないのだから...

# 今年はこの調査が進行中です

乙女高原の自然の状況をきちんと把握した上でないと、乙女高原の自然を守るための方策を考えることはできません。ですから、調査活動というのは、自然を守る上でとても重要です。今年も以下のように数多くのプロジェクトが進行中です。調査者は「調査中」という緑色の腕章を身につけています。お気軽に声をかけてください。また、興味があるようでしたら、ぜひ、お手伝いいただきたいと思います。調査と分析が一段落ついたら、このニュースレターでも調査結果の報告をさせていただきたいと考えています。

## 1 麻布大学の高槻研究室 2年目 2011年より

二ホンジカが草原に与える影響を調べ、良好な草地的環境を維持管理してゆくための基礎資料を作成することが目的です。中心的に調査を行うのは、高槻成紀先生と学生の高橋さん、加古さんです。

1. 森林と草原内で糞密度調査を行うことにより、シカの群落利用を森林と草原で比較する。
2. シカの食性を糞分析で明らかにする(進行中)。
3. 自動撮影カメラを設置してシカを撮影し、シカによる森林と草原の利用比較をおこなう。
4. 柵内外の代表的な植物をマーキングして草丈の季節変化を比較するとともに、夏季に柵内外で植物群落調査を行うことにより、シカによる植物群落への影響を考察する。
5. 森林内でミヤコザサを刈り取り、シカによる採食の程度を調査・評価する。
6. 森林内と草原内の一定ルートを歩き、見られた全訪花昆虫と花の組み合わせを記録・比較する。
7. 柵内外の虫媒花の茎あたり花数を計数・比較し、シカの虫媒花への影響を評価する。
8. 柵外の虫媒花植物を簡易なシカ柵で囲い、中の虫媒花植物を追跡調査する。(右写真)
9. 糞虫トラップによって糞虫を採取・同定する。



## 2 東京農工大学の星野研究室 1年目 2012年より

乙女高原の刈草を用いて藁撒き工法(刈り取った草を別の場所に撒いて植物を移植する方法)を行った残土処理場において、植物の定着状況や生育状況をモニタリングするとともに、乙女高原の植生状態を把握するために植生調査を行います。中心的に調査を行うのは星野義延先生と東京環境工科学園の星野順子先生です。

1. 残土処理場に設置した4個の10m四方の方形区の中に設置した4m四方のサブコドラートごとに植生調査を行う。
2. 乙女高原と残土処理場の草原の変化を知るために乙女高原でも植生調査を行う。



## 3 厚木市郷土資料館の槐学芸員 5年目 2008年から

亜高山帯の草原地における昆虫相を把握し、良好な草地的環境を維持管理してゆくための基礎資料を作成するために行います。中心的に調査を行うのは槐さんです。

- ・調査対象 チョウ目, トンボ目, カメムシ目, バッタ目, コウチュウ目を主とした昆虫全般

- ・ 調査資料 各種最小限度（1種2～3個体程度）の採集，標本化を行う。
- ・ 調査手法 目視による観察・捕虫網での捕獲（通年），ベイトトラップ・ライトトラップ（7～9月）

ベイトトラップ：オサムシ類・シテムシ類・アリ類などの地表徘徊性昆虫を対象とした調査法で，糖蜜や腐肉などの誘引餌（ベイト）を入れた紙コップ（トラップ）の口が地表面と同じレベルになるように埋めて，その中へ落ち込んだ昆虫類を採集する。

ライトトラップ：多くの昆虫が明かりに集まることを利用して昆虫を集める方法。（右写真）



#### 4 中型哺乳類の食性分析 7年目 2006年から

中型哺乳類であるテンの糞を季節ごとに分析し，彼らは何を食べているかを調べ，その季節変動や年による変化を明らかにし，良好な草地的環境を維持管理してゆくための基礎資料を作成するために行います。中心的に調査を行うのは植原で，分析等は応用生態技術研究所の足立高行さんです。



#### 5 乙女高原の気温 3年目 2010年から

気温は調査の基礎資料として欠かせないものです。昨年・一昨年と雨宮さんによる小さな百葉箱の中に自動温度記録計を入れて測定していましたが，今春から本格的な百葉箱を（仮）設置し，その中に温度計を入れて計画を開始しました。

#### 6 マルハナバチ調べ隊 10年目 2003年から

乙女高原の草花にとって，マルハナバチは受粉してもらうための欠くことのできないパートナーです。マルハナバチの状況が乙女高原の草花たちの「健康状態」に直結するのではないかと考え，年に3回，同じ時期に調査を行い，データを積み重ねています。

#### 【観察報告】4月30日の乙女高原 メールマガジン269号 2012.5.3.より

びっくりしました。二日前の28日にはまだ林道ぞいのヤマブキは全然咲いていなかったんですよ。でも，30日には林道脇のいたるところでヤマブキの鮮やかやオレンジ色の花を見ることができました。初夏，最高に美味しいベリーを付けるモミジイチゴの南向きの白い花もたくさん咲いていました。夏が楽しみです。時々，車を止めて1年ぶりの再会を果たした花たちの写真を撮っていると，耳には，これも1年ぶりのオオルリやキビタキ，センダイムシクイや遠くからツツドリの声が聞こえてきます。目にも耳にもそんな春の情報がどんどん入ってきて，目や耳が喜んでいるような気がします。

旧山口林道途中の大きなフジザクラも28日には全然咲いていなかったのに，今日はもう満開。すごくきれいでした。しかも，マルハナバチたちが蜜を吸いに来ていました。花が極端に少ないこの時期，マルハナバチの命をつなぎ，夏の繁栄に導いてくれるのがこれら早春の花々なのですが，このフジザクラの花はその象徴です。コママルハナバチの女王4頭，オオマルハナバチ女王1頭を確認しました。桜の仲間はフジザクラの他にヤマザクラ，カスミザクラ，躑躅の仲間はミツバツツジ，ヒカゲツツジ，ヤマツツジが咲いていました。きっとこれらの花にもマルハナバチが訪れていることでしょう。目立たない花が多いのですが，カエデの仲間の花も見かけました。アサノハカエデ，ウリハダカエデ，イタヤカエデの花を見ました。

帰りは焼山峠から塩平の方に降りました。去年はたくさんのマンサクの花に迎えられ，すごく幸せな気分になったのですが，今年は花の付きが悪いようです。ちょっとがっかりしていましたが，途中まで下ってきたところで，道路脇にスマレの花を見つけました。タチツボスマレという人里のスマレの代表みたいなスマレです。「ここにも，あっ，ここにも！」と写真を撮っていたら，エイザンスミレの花も見つけました。葉に切れ込みがある，変わったスマレです。一つ見つかりと，次から次へと見つかるものです。「ここにも，あそこにも」と少しずつ歩きながら写真を撮っていたら，「おー，ヒナスミレも咲いてるじゃん！」小さくて，とっても上品な感じのスマレです。そして，ついに，地面からニューッと鎌首が持ち上げ，そこに花を付けるアケボノスマレの花を発見。このスマレ，花の時期には葉を付けません。地面から花だけ飛び出ているような感じですが，ふたごのように並んで咲いていました。いよいよスマレの季節です。

# 乙女高原ファンクラブの事務局だよ

10/27(土) -29(月)に群馬県みなかみ市で行われる「全国草原サミット・シンポジウム」で乙女高原ファンクラブの活動紹介をさせていただくことになりました。皆さんもこの催しに参加しませんか？ ちなみに乙女の紹介は28(日)の午前中です。

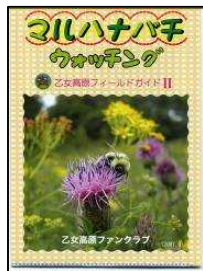
## 乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』  
(A4判 186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1,000円、送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で1冊につき1,080円を送金してください。



乙女高原ファンクラブ

『乙女高原フィールドガイド シリーズ』 欲しい方は事務局までご連絡ください。



『フィールドガイド スミレの観察のおともに 乙女高原のスマレウォッチング』  
(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

『フィールドガイド マルハナバチの観察と調査のおともに マルハナバチ ウォッチング』  
(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。

『フィールドガイド 春から夏にかけて咲く草花のガイド 乙女高原のお花たち』  
(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。

## 乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の2種類があります。会報(ニュースレター)は年4回発行予定です。年に1度は全会員に送っていますが、あとの3号(この号もそうです)は普通会员にしか送っていません。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」という内容のファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

## 乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3  
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp  
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。  
WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ